

第4章 将来像の実現に向けた課題の整理

4.1 課題の整理

第2章で抽出した課題から、以下の7点から課題を整理します。

1 利便性の高い交通ネットワークの整備

(1) 階層性のある公共交通ネットワークの構築

市内の各拠点等を結ぶとともに、首都圏等を含む他都市との間を結ぶ鉄道やLRT、バス路線、地域内交通などが連携した階層性のある効率的な公共交通ネットワークを構築する必要があります。

(2) 交通手段間の連携強化

乗り継ぎ環境の向上や運賃負担の軽減等による公共交通間の乗り継ぎの円滑化やタクシーや自転車等の末端交通との乗り換え利便性の向上など、交通手段間の連携を強化する必要があります。

(3) 公共交通の利便性の向上

定時性・速達性の向上や運行時間帯の拡大、運賃負担の軽減などの公共交通のサービスの向上や待合施設の整備などの利用環境の向上を図る必要があります。

(4) 自動車交通の円滑化

バスやタクシー等の公共交通を含む自動車交通の円滑化や他都市との間の結ぶ高速道路と円滑に接続できるスマートICなどを整備する必要があります。

2 安全・安心な交通環境の整備

道路のバリアフリー化や自転車走行空間の整備、生活ゾーン等における自動車の速度抑制など、歩行者や自転車利用者などが安全に移動できる環境を整備する必要があります。

3 自動車から公共交通などへの利用転換

過度に自動車へ依存したライフスタイルから、移動目的に応じて自動車と公共交通などを適切に使い分けるライフスタイルへの転換に向けた市民の意識を醸成する必要があります。

4 地球環境にやさしい交通環境の整備

電気自動車などの低炭素型自動車の普及促進や自動車利用の抑制など、交通分野における温室効果ガスの排出を抑制する必要があります。

5 国内外との交流を促進する交通環境の整備

国内外からの来訪者の増加・目的地の多様化に対応した二次交通手段の充実や本市在住を含む外国人に向けた公共交通の案内サインを充実する必要があります。

6 まちづくりと交通との連携

中心市街地の活性化やネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた拠点化の促進などの取組と、交通ネットワークの充実に一体的に取り組むなど、まちづくりと連携した交通施策を推進する必要があります。

7 最新の科学技術の交通分野への活用

自動運転技術の公共交通等への導入や新たなシェアリングシステムの導入など、今後、実用化が想定される最先端技術の活用を検討する必要があります。